

湘南港(江の島ヨットハーバー) のあるべき姿

提言書



平成15年11月

湘南港のあるべき姿検討懇話会

目次

はじめに	1
懇話会の目的	2
懇話会委員名簿	2
提言について	3
テーマ1「江の島との融合」	4
提言：江の島と湘南港が一体となった「みなとまちづくり」	4
テーマ2「海洋文化拠点の形成」	7
提言：海洋学習の拠点づくり	7
提言：市民に開かれたみなとづくり	12
テーマ3「景観への配慮」	15
提言：周辺景観との調和	15
提言：魅力ある湘南港の雰囲気づくり	17
テーマ4「アクセスの向上」	20
提言：陸上アクセスの改善	20
提言：海上アクセスの形成	22
テーマ5「安全で安心なみなとづくり」	24
提言：緊急物資受入港としての機能の充実	24
提言：安全管理の向上	27

はじめに

湘南港は、史跡名勝「江の島」の東に位置し、昭和 39 年に開催された東京オリンピックのヨット競技会場として完成し、以来、日本最大規模の公共マリーナとしてヨット活動の普及に貢献してきている。また、近年では市民に開かれたマリーナとしての要請も寄せられており、平成 3 年度から、保管隻数の拡大や市民に開かれたマリーナを目指した、防波堤、緑地及びヨット保管施設などの再整備事業が進められている。

しかしながら、ここ数年、海洋性レクリエーションの多様化が顕在化してきており、カヌー、シーカヤック、ホエールウォッチング、ジェットスキー、ウェイクボードなど、海を利用した様々な活動が行われているようになっている。

湘南港においても、従来のヨット活動のほか、青少年のヨット教室、カッターの体験乗船会、障害者等を対象としたアクセスディンギーの体験乗船会が行なわれるなど、ニーズの変化に対応した取り組みが行われている。

また、阪神大震災では、港湾の役割や重要性が再認識され、全国的な喫緊の課題として大規模地震に対応した整備が求められており、湘南港においても大規模地震発生時における緊急物資受入港としての整備が進められている。

一方で、我が国では、65 歳以上の高齢者の割合が年々増加しており、平成 18 年をピークに人口が減少に転じるとされていることから、少子高齢化が将来においても急激に進展するものと考えられている。特に、いわゆる団塊の世代が一斉に定年を迎える時代になってきており、人口の比較的多いこれら世代が、地域活動やレクリエーション活動などに対して積極的に参画してくることが想定されており、これらの活動に対する受け入れ体制の整備拡充が求められてきている。

さらに、世界的にみられる地球温暖化による海面上昇や気候の変化など、環境問題も顕在化してきており、環境に対する関心が高まってきている。

加えて、長引く不況が続いており、国や地方自治体などにおける財政状況が悪化している状況にあり、不可欠なインフラ整備や環境整備の十分な対応に対して懸念が生じている。

このように、今後の社会資本整備においては、少子高齢化、環境問題、財政問題などが非常に大きなキーワードとなっており、これら諸問題に対応した取り組みが必要となっているなど、社会的要請はここ数年で、大きく変化してきている状況にある。

このような中、湘南港では、平成 3 年に再整備計画が策定されているものの、策定から既に 10 年以上が経過し、前述したように海洋性レクリエーションに対するニーズや社会的要請が大きく変化してきており、湘南港を取り巻く時代の流れに対応していくことが求められている。

そこで、神奈川県では、これらの状況を踏まえ、学識経験者により構成された「湘南港のあるべき姿検討懇話会」を設置し、湘南港の将来のあるべき姿について見つめ直していくこととした。

湘南港のあるべき姿検討懇話会の目的

湘南港のあるべき姿検討懇話会は、湘南港の課題や地域に果たすべき役割、開かれた港湾としての新たな機能等について意見交換を行い、湘南港だけでなく江の島と一体となった活性化施策など、ソフト面の提案や施設整備などのハード面の提案まで、“湘南港(江の島ヨットハーバー)のあるべき姿”を提言としてまとめた。

なお、各提言の実現に向けては、湘南港を管理する神奈川県が行政にできるだけ反映させるとともに、地域住民、藤沢市、国等、各主体の積極的な協働が望まれる。

：ここで述べる“江の島”とは、湘南港がつくられる以前から存在している自然の島の部分を示し、“湘南港”とは、埋立てによりつくられた部分を示す。

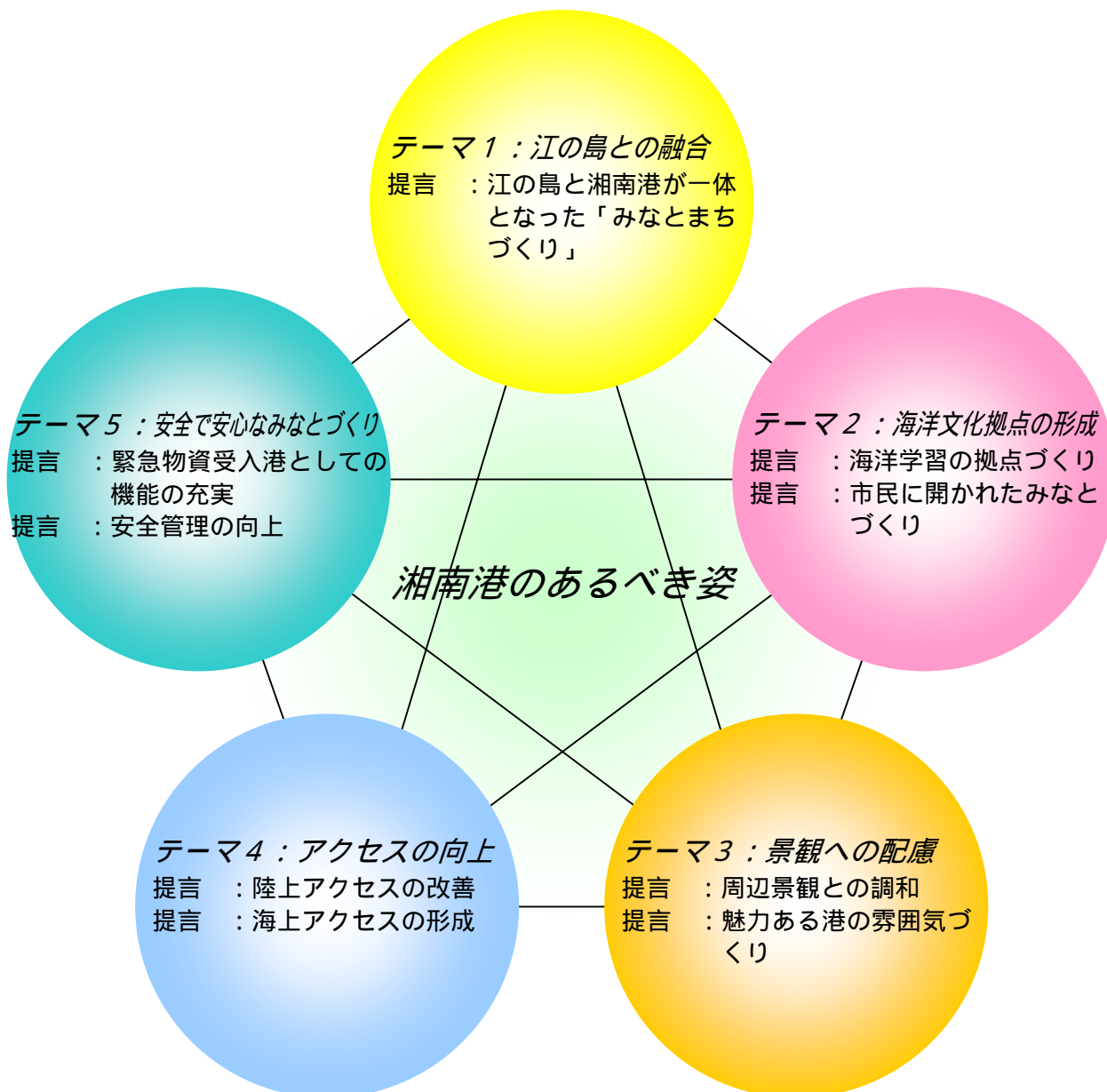
委員名簿（順不同、敬称略）

種別	氏名	所属
会長	近藤 健雄	神奈川県港湾審議会 委員
委員	北村 治之	江の島片瀬漁業協同組合
”	工藤 博	海上保安庁横須賀海上保安部
”	栗山 昂久	(社)関東小型船安全協会
”	柴山 知也	神奈川県港湾審議会 委員
”	田中重五郎	(財)マリンスポーツ財団
”	田中 田人	江ノ島電鉄(株)
”	並木 直美	神奈川県港湾審議会 委員
”	昇 隆夫	(株)東京レポ-センター-東京夢の島 marina・NPO 法人 神奈川県セ-リング 連盟
”	萩原 浩一	藤沢エフエム放送(株)
”	藤田 郁夫	国土交通省関東地方整備局港湾空港部
”	二見 幸雄	江の島振興連絡協議会
”	三浦 由理	藤沢市都市景観審議会 委員
”	山本 捷雄	藤沢市長

提言について

湘南港のあるべき姿検討懇話会における意見を踏まえ、以下に示す5つのテーマごとに9つの提言を作成した。これらの提言は、それぞれが相互に関連があることから、“湘南港のあるべき姿”を実現していくためには、これらを同時に実施していく必要がある。

湘南港のあるべき姿の実現に向けた提言



提言書の構成は、以下のとおりである。

1. 「提言本文」
2. 【背景】…江の島、湘南港の現状、社会環境の変化等、提言に至る背景
3. 【提言の解説】…提言の詳しい内容
4. 【提言実現のための施策案】…提言を実行していくための具体的な行動内容
5. 【参考事例】…提言の実施にあたり参考となる事例等

提言：江の島と湘南港が一体となった「みなとまちづくり」

江の島と湘南港が一体となり活性化するために、市民やNPOが参画した「みなとまちづくりプラン（仮称）」を策定し、市民・NPO・行政等の協働により地元の資産を活かしたまちづくりを進めることを提言する。

：“江の島”とは、湘南港がつくられる以前から存在している自然の島の部分を示し、“湘南港”とは、埋立てによりつくられた部分を示す。

【背景】

湘南港では、港としての安全、快適な利用を図るために、(株)湘南なぎさパークや湘南海上保安署が組織されており、また、ヨット活動を支援するために、様々な協会やクラブが組織され、ヨットのレース、教室、イベントなどが実施されている。一方、江の島では、町並みの保存や地域振興を図るために、振興連絡協議会や都市景観形成協議会などがつくられており、これらの組織・団体等の協力により島内及び湘南港の利用に際しては安全かつ快適なヨット活動がおこなわれている。

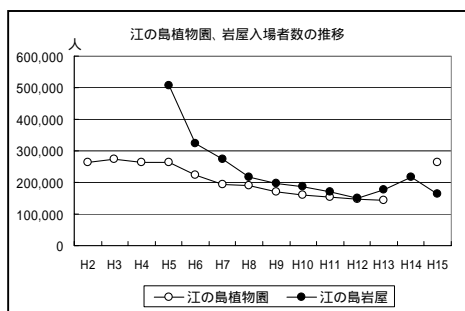
しかしながら、これらの組織・団体等の活動は、それぞれの活動範囲内に限られるため、港湾、ヨットハーバーとしての湘南港の利用と観光地としての江の島の利用が、はっきりと分かれているのが現状である。

また、湘南港においては、少子・高齢化によるヨット利用者の減少が深刻な問題となっていることから、利用者のニーズやサービス機能の向上を図る対策が急務となっている。

このような中、2003年4月29日には、江の島島頂部において、灯台及び植物園が官民協働によりリニューアルオープンし、新展望灯台に生まれ変わると同時に、これまでの植物園は「サムエル・コッキング苑」として、明治時代の温室遺構の保全を始め、5つの友好都市親善広場や施設の建設により、頂上部の付加価値が高まり、観光資源として大きな誘客効果を呈している。

一方、片瀬海岸では、シーカヤック、ボディボード、アロマセラピー、クラゲの観察など、海岸利用を提案するビーチクラブ社会実験イベントが行われており、今後は、江の島の観光資源として「江の島、湘南港、片瀬海岸」が一体となった取り組みが必要である。また、館山港や伊東港では、大型クルーズ客船を港や港の沖合に誘致するとともに、客船の寄港にあわせて花火大会等の地域のイベントを開催しており、港と地域が一体となり地域振興を図っている事例もみられる。さらに、シドニーでは、大型クルーズ客船をヨットなどで迎えることで華やいだ雰囲気をつくるなど、みなとにおける様々な取り組みが行われている。

観光施設の入込客数の推移（江の島）



出典：藤沢市資料：平成15年については、植物園は4月～9月、岩屋は1月～9月のデータ

にっぽん丸の誘致による地域振興（館山港）



出典：商船三井客船（株）

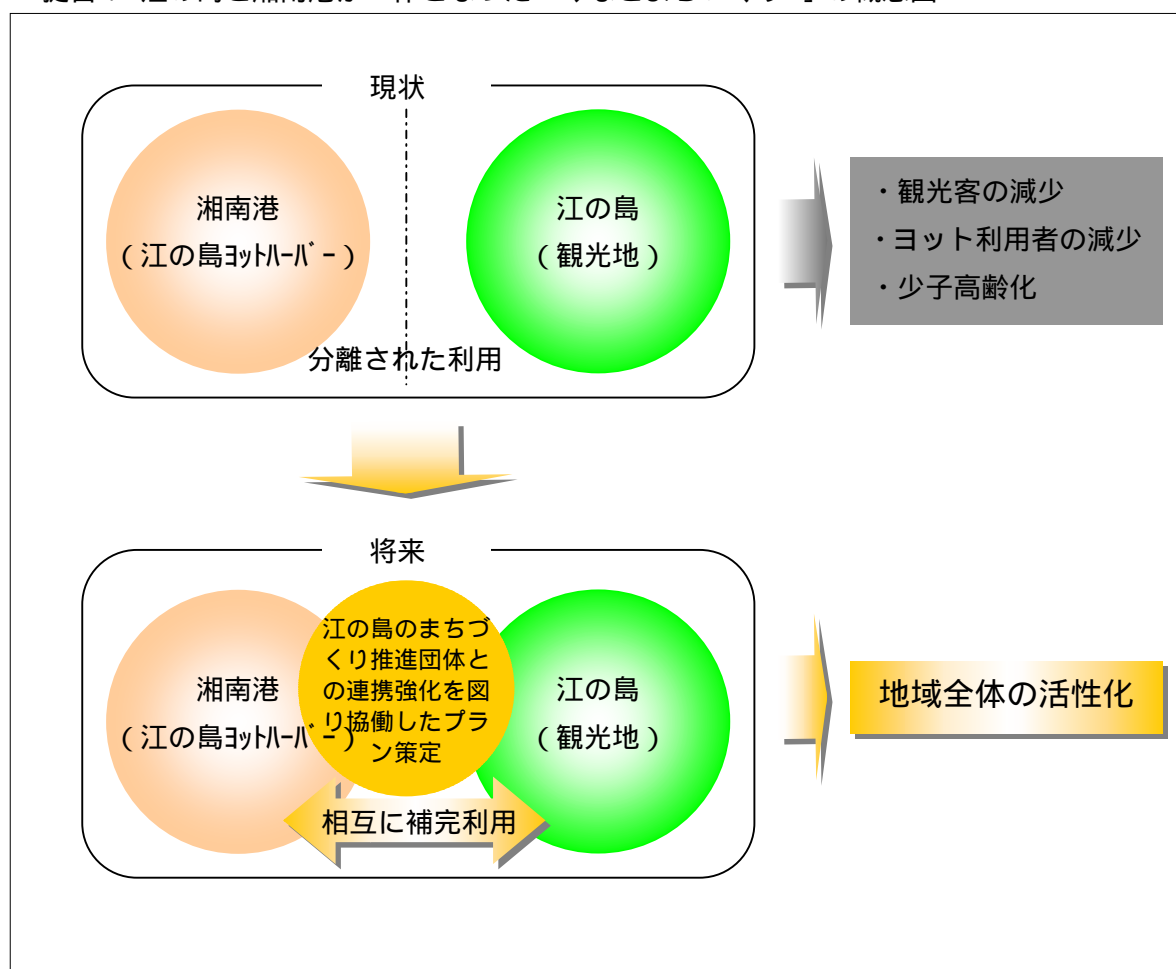
【提言の解説】

江の島、湘南港の活性化を図るため、江の島、湘南港にかかわる神奈川県や藤沢市、及び地元漁業者、ヨット関係者、地元住民、市民、NPO団体などの様々な組織・団体等が一体となり、また、周辺の活動団体との連携を図りながら、地元資源を活かしたみなとまちづくりについて共に考え、行動（協働）する。

この中で、「みなとまちづくりプラン（仮称）」を策定し、例えば、大型クルーズ客船を誘致し、ヨットで客船を迎えるとともに、寄港に合わせ花火大会などの地元イベントを開催したり、江の島と湘南港が一体となった祭りを開催するなど、江の島の有する観光地としての側面と湘南港の有する港としての資産を活かし、それぞれが有する機能や特性を十分考慮し発揮すると共に、互いに補完し合うことのできる仕組みづくりを行い、相乗的な活性化を図る検討を行う。

また、湘南、江の島のブランドを活用して、地域の環境維持のための基金づくりを行うなど、江の島と湘南港が一体となった取り組みも積極的に行い、地域全体の活性化を図る。

提言：「江の島と湘南港が一体となった“みなとまちづくり”」の概念図

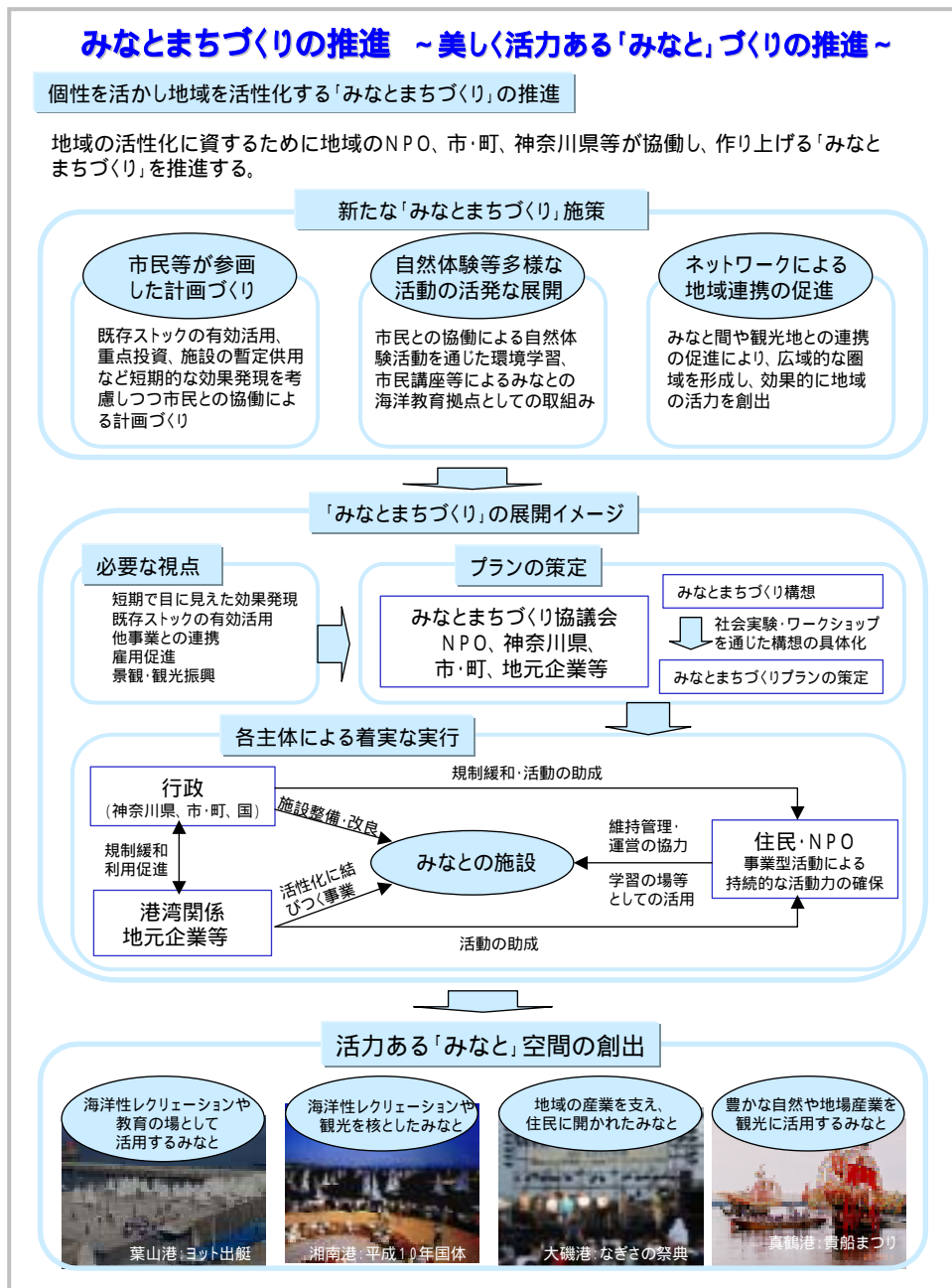


【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	湘南港や江の島のまちづくりに関するNPOの設置	市民
	NPOと協働する「みなとまちづくりプラン」の策定と推進	市民、NPO、民間、藤沢市、神奈川県、国
	江の島固有の自然や文化・歴史を観光資源として活用	民間、藤沢市、神奈川県
	帆船や高速船など多種・多様な船舶が来港するみなとづくりの推進	市民、NPO、民間、藤沢市、神奈川県
中・長期	湘南、江の島ブランドを活用した基金づくり	市民、NPO、民間、藤沢市、神奈川県、国
		NPO、藤沢市、神奈川県

【参考事例】

NPO、市町村、港湾管理者等の協働によるみなとまちづくりのイメージ



出典：神奈川県資料

提言：海洋学習の拠点づくり

江の島、湘南港を海洋性レクリエーション活動（海のスポーツ活動、生物観察、体験漁業等）の場とし、青少年、高齢者、障害者を問わず、誰もが海の活動に参加できる海洋学習の拠点として位置づけること及びニーズに応じた新たな海洋性レクリエーション機能を導入することを提言する。

：海洋文化拠点とは、海に関する様々な体験や機能を有効に活用できる場であることから、自然のスポーツ施設であり、図書館や美術館といった学習文化施設として位置づけていく。

【背景】

湘南港は、東京オリンピックのヨット競技会場として、昭和39年に完成した日本最大規模のマリーナであり、古くから学生のヨット活動やヨットレースの会場としてヨット愛好者に親しまれている。

最近では、藤沢市青少年協会や社団法人江の島ヨットクラブ、藤沢市ヨット協会などによる、小中学生を対象としたヨット教室が開催されているほか、(株)湘南なぎさパークやNPO法人セイラリビリティジャパンの支援によって、誰もが簡単に操作することのできるアクセスディンギーが導入されており、青少年や障害者を中心に利用されている状況にある。

ヨット教室（湘南港）



出典：藤沢市青少年協会資料

アクセスディンギーの体験乗船（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成15年8月撮影）

また、江の島は、古くからの観光地として栄え、修学旅行の訪問地としても利用された実績があり、最近では、藤沢市青少年協会による、自然の磯場を利用した生物観察会やカッターの操船体験などが開催されている。

このように、江の島、湘南港は、海に関する様々な体験ができる場として人々に親しまれているものである。

海辺の生物観察（江の島）



出典：藤沢市青少年協会資料

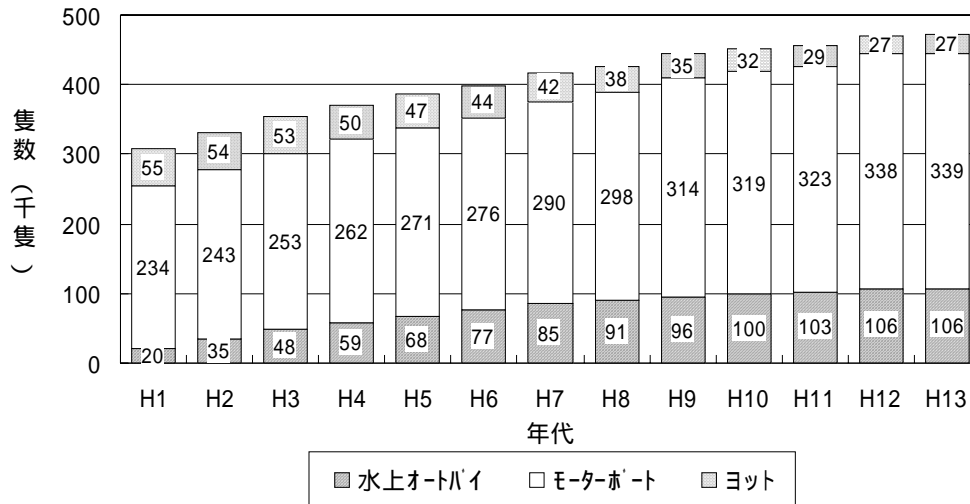
カッター操船体験（湘南港）



出典：藤沢市青少年協会資料

しかしながら、湘南港ではヨットを中心とした利用がなされているため、その他のレクリエーションメニューは乏しい状況にあるが、最近では、全国的に海洋性レクリエーション需要の多様化がみられるものの、ヨット需要は減少しており、湘南港においても、現在、ディンギーヨットの保管利用者の募集が行われているが、一部に空き（H15.9.23 現在、収容能力 878 パースの内、84 パースが空き）がみられるのが現状である。

全国のプレジャーボート保有隻数の推移

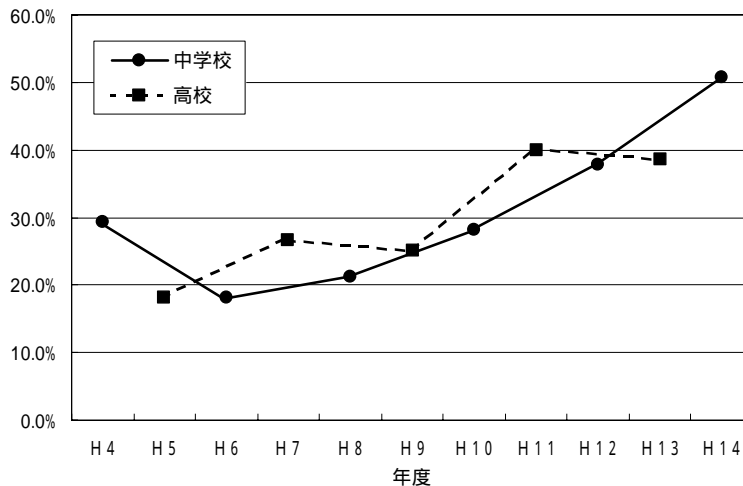


出典：海洋性レクリエーションの現況と展望 平成 14 年 12 月 国土交通省総合政策局海洋室編

また、江の島を訪れる修学旅行生は、近年ではほとんどみられないが、2002 年から導入されている新学習指導要領では、小中学校による「総合的な学習の時間」が新設されており、その一環として、一部の学校ではヨットやカヌーなどの海洋性レクリエーション活動が取り入れられている。また、漁協などの協力による定置網などの体験漁業なども行われている。

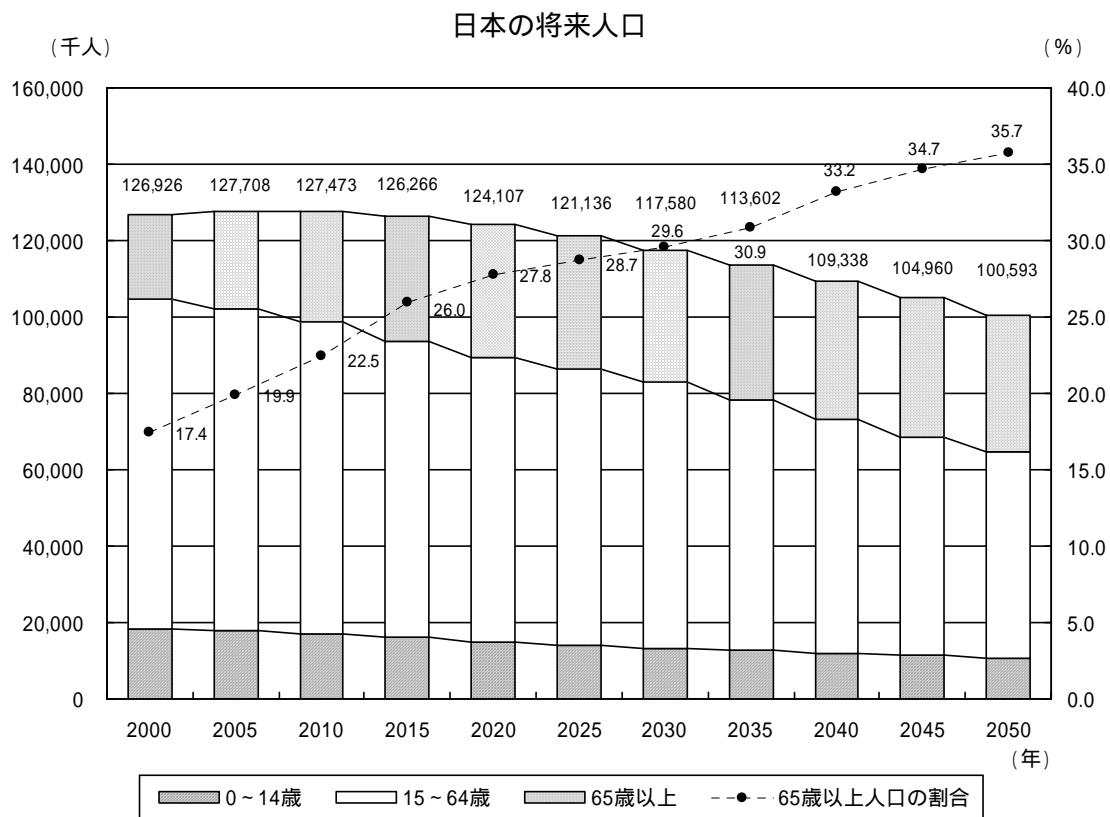
最近の調査によると、修学旅行のニーズとして、「観光」から「体験学習」へと様変わりしており、中学校の約 5 割、高校の約 4 割が修学旅行に体験学習を取り入れ、その内容として海洋性レクリエーション活動の人気の比較的高くなっている。

修学旅行で体験学習を行った学校の割合



出典：財団法人日本修学旅行協会

また、最近は、少子高齢化社会の進展により、生涯学習の場が求められるようになってきており、海洋性レクリエーション活動におけるユニバーサルデザインの導入等を図るなど、高齢者や障害者に対応した海洋性レクリエーション活動の場が必要となっている。



出典：日本の将来推計人口 国立社会保障、人口問題研究所

【提言の解説】

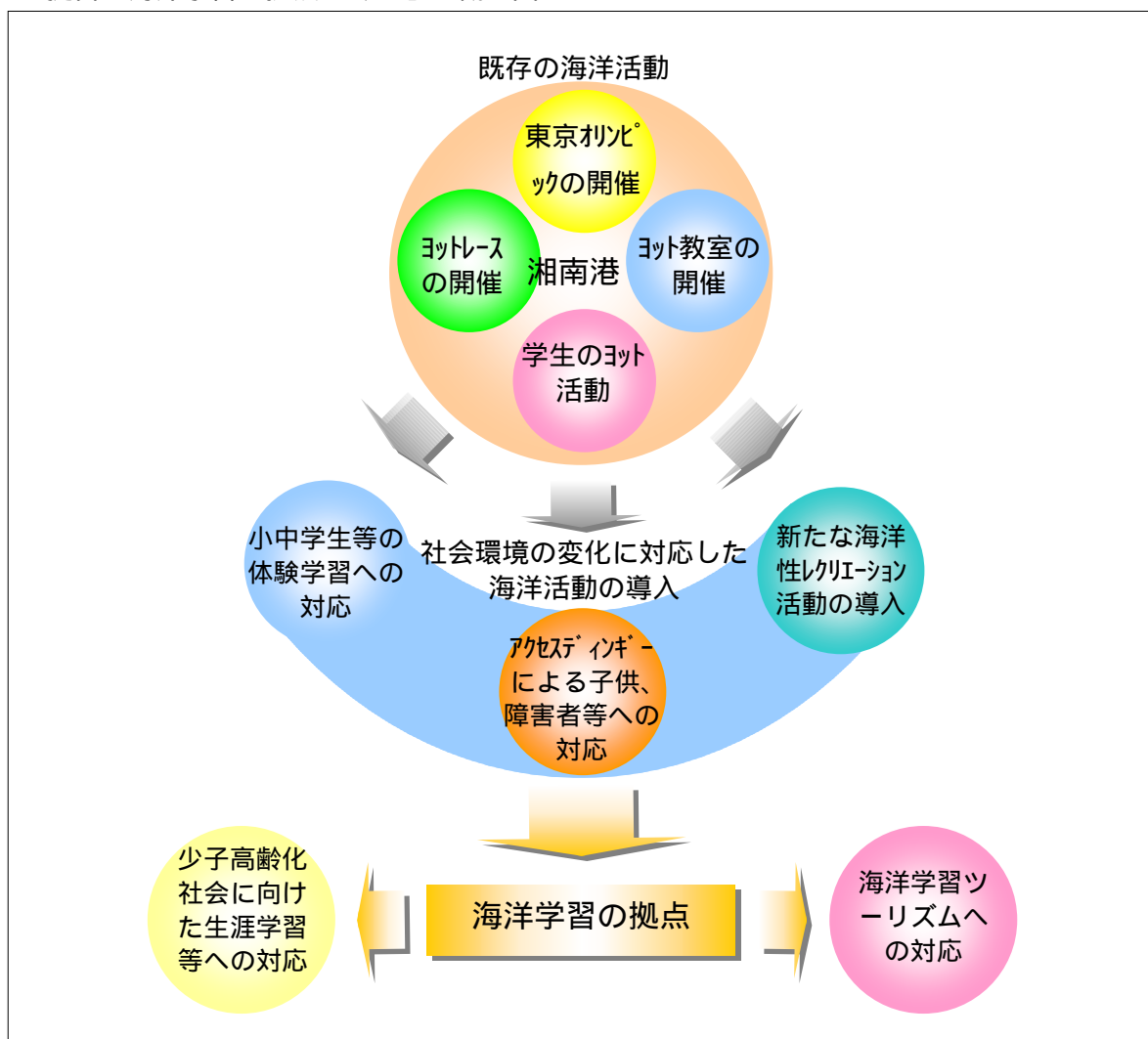
江の島、湘南港においては、既存のヨットの活動に加え、新たな海洋性レクリエーション活動の導入を検討し、海のスポーツ活動の場としての充実を図る。

また、既に行われている子供達を対象としたヨット教室、カッター操船体験、生物観察、体験漁業などの海の体験学習や、子供や障害者を対象としたアクセスディンギーの体験乗船など、安全面に考慮しつつ、既往・新規の活動メニューの充実・導入を図る。

そして、これらの活動を統括的に行うことができるように、江の島水族館に設置される「体験学習施設」との連携や一体的な取り組みを行うとともに、湘南港独自の環境学習プログラムをつくり、これらのプログラムを実践していくための指導員を育成（ライセンスの取得）していくことにより、江の島、湘南港を“海洋学習の拠点”として位置づけていく。

さらに、活動内容に関する情報の発信や、学習の場として利用できるようヨットハウス等の改善を図り、海洋学習の拠点にふさわしい場づくりを行うことにより、最近の社会的ニーズに対応した、総合学習や修学旅行等の海洋学習ツーリズムのフィールドとして、学校や旅行業者等に対し積極的に誘致していくとともに、今後増加する高齢者等に対する生涯学習の場として、地域住民のみならず広く一般にPRしていく。

提言「海洋学習の拠点づくり」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	ヨット、カッター、生物観察等体験学習の充実	NPO、藤沢市、神奈川県
	アクセスディンギーの充実	NPO、神奈川県
	海洋学習活動内容の情報発信	NPO、神奈川県
	海洋性レクリエーション需要の多様化に対応した新たな機能の導入	神奈川県
中・長期	青少年の体験学習を支援する海洋文化拠点施設の誘致	民間、藤沢市、神奈川県
	海洋学習の拠点としてのヨットハウス等施設の改善	神奈川県

【参考事例】

海洋学習の拠点施設の事例

国立室戸少年自然の家



施設概要

本施設は、高知県室戸市の海が近接した標高 300m 付近の山頂付近に立地した国立の施設である。施設内には宿泊所、研修室、展示室、キャンプ場、広場などがあり、低廉な料金で利用することができる。施設では、山、海を利用した様々な活動を行うことができる。

主な活動メニュー

- ・ 海の自然体験活動、海岸のクリーンアップ活動
- ・ プラクトンなど海の生物観察、及び潮流の観測
- ・ オシャンカック、ヨット、シュノーケリング等の海洋活動
- ・ 紅毛カウチング、鯨舟唄・ウミガメ見学・クマヅメ鯨館見学他
- ・ サゴの学習、鯉のたたき作り、遠洋鮪船の見学他
- ・ シュノーケリングによる海岸生物の採集観察 etc.

出典：国立室戸少年自然の家資料 (<http://www.inforiyoma.or.jp/mnnc/page1.htm>)

大阪府立青少年海洋センター



施設概要

本施設は、大阪の南部、岬町に位置した、大阪府の施設である。施設内には、宿泊棟、集会展示棟、体育館、艇庫、バーベキュー広場、海水浴場などがあり、低廉な料金で利用することができる。施設では海に関連した様々な活動を行うことができる。

主な活動メニュー

- ・ 小型、中型、大型ヨットの操船
- ・ カッターの操船、ｶｰの操船
- ・ ｲｶﾀの組み立て、及び操船
- ・ 海水浴場での磯遊びや海草拾い、貝殻拾い等
- ・ サンドアート、ビーチバレ、ビーチドッジ、ビーチコミング
- ・ 魚釣り、潮干狩り etc.

出典：大阪府立青少年海洋センター資料 (<http://www.yso.or.jp/kaiyo/sisetu.htm>)

提言 : 市民に開かれたみなとづくり

市民に開かれたみなとにするために、ニーズに応じた多様な海洋性レクリエーションの導入を推進するとともにレンタルヨットやビジター制度の充実を図ることを提言する。また、ヨットレースの誘致はもとより、誰にも親しまれる湘南港(江の島ヨットハーバー)を多方面にPRすることを提言する。

【背景】

江の島は全国的に知られているが、江の島にヨットハーバーがあることや、ヨットハーバーのある港が湘南港であることは、広く一般に知られていない。また、ヨット関係者の中にも、江の島ヨットハーバーが、湘南港という名称であることを知らない人が多い。

一方、ヨットを利用しない人の多くは、江の島ヨットハーバーを“お金持ちが利用する場所”として誤った認識をしているため、ヨットハーバーは“気軽に利用できない施設”となっており、一般市民のために開放されているセンタープロムナードやさざえ島でさえ利用できないものと認識している人もみられる。

湘南港には、ヨットハウス内にレストランや売店などがあるものの、ヨット利用者以外の利用は、ほとんど見られないのが現状である。また、ヨットハウスのつくりが古いため、ヨットを利用しない一般の人々が気軽に立ち寄りたくなるような施設とはなっていない。さらに、センタープロムナードやさざえ島についても、誰もが気軽に立ち入れることが十分に知られていない状況にある。

一方、高齢者が増加する中、最近では健康増進を図ることが多くの人々の関心事となっており、今後ますますスポーツを楽しむ場が求められるものと考えられることから、湘南港においてもその一端を担っていくことが望まれる。

ヨットハウス内のレストラン(湘南港)



出典：神奈川県資料(平成15年2月撮影)

センタープロムナード(湘南港)



出典：藤沢市資料(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

ヨットハウス内の売店(湘南港)



出典：神奈川県資料(平成15年2月撮影)

さざえ島にあるタイドプール(湘南港)



出典：神奈川県資料(平成15年7月撮影)

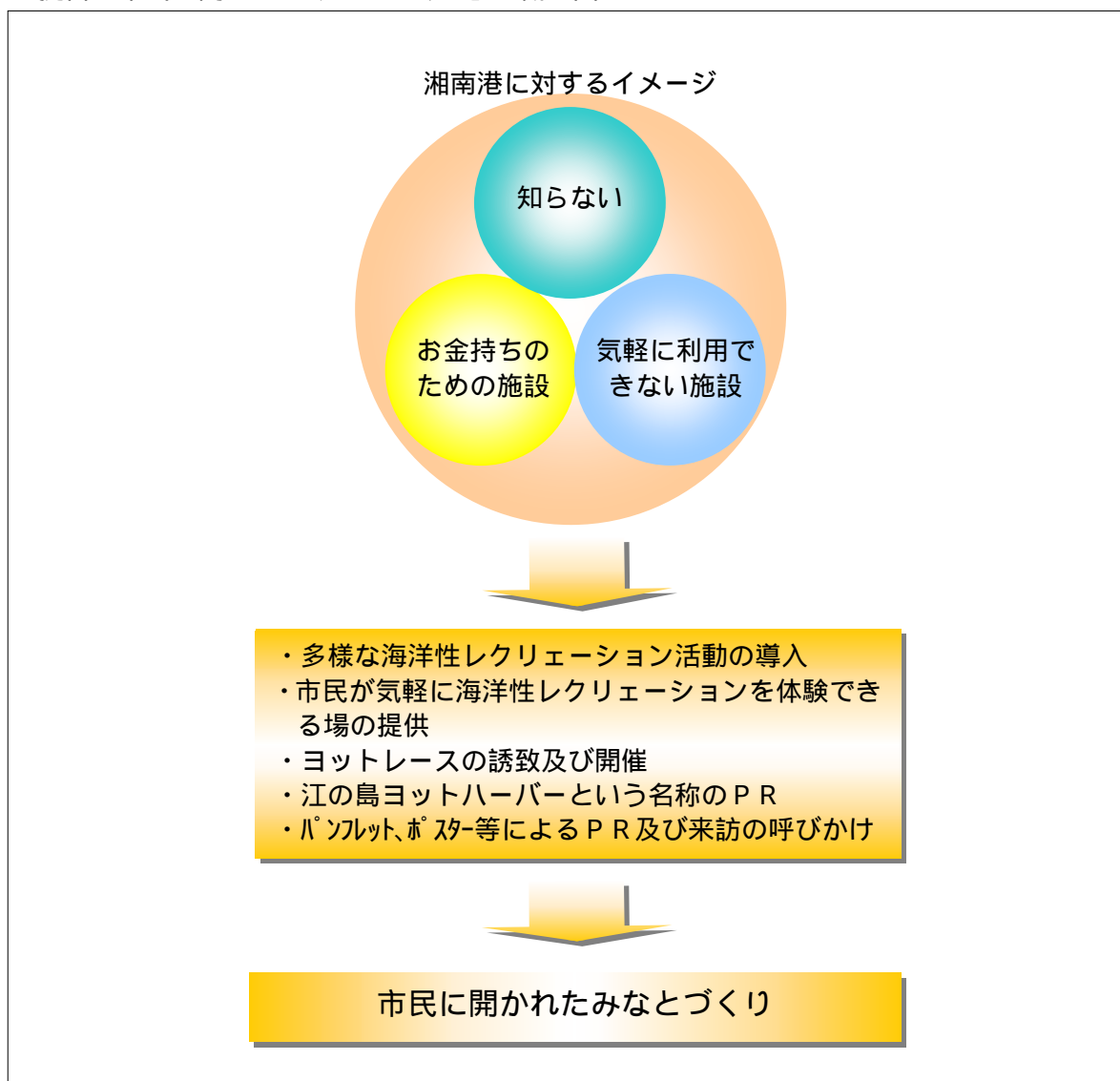
【提言の解説】

湘南港においては、市民に開かれたみなととしていくため、海洋性レクリエーション需要の多様化に対応した新たな機能の導入を図るとともに、既存のレンタルヨット制度やビジター利用制度のさらなる充実を図ることにより、市民が気軽に海洋性レクリエーションを体験できる場としていく。

また、一般的な通称となっている“江の島ヨットハーバー”という名称を湘南港と併記することにより（例：羽田空港は、正式名称が東京国際空港であるにもかかわらず、一般的な名称として使われている）広く一般市民に認知してもらうとともに、湘南港（江の島ヨットハーバー）の施設紹介や来訪を呼びかけるパンフレット・ポスターを制作し、駅などに配布することによる集客、また、湘南港の特色を活かしたイメージキャラクターやグッズの開拓により、湘南港を積極的にPRしていく。

さらに、ヨットハウス及び内部における案内誘導の改善や緑地の開放などを積極的にPRし、一般市民が気軽に立ち寄れるオープンスペースとして、また、誰もが自然の景観を楽しむことができる「みなと」としていく。

提言「市民に開かれたみなとづくり」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	レンタルヨット制度やビジター利用制度の充実 ヨットレースの誘致及び開催	神奈川県 県セーリング連盟、江の島ヨットクラブ、 藤沢市ヨット協会等、神奈川県
	名称を「湘南港」・「江の島ヨットハーバー」で併記	神奈川県
	パンフレットやポスター、インターネット等を活用したPRの推進	神奈川県
中・長期	市民に開かれたヨットハウスの整備	神奈川県

【参考事例】

市民に開かれた港の事例、江の島ヨットハーバーを紹介するパンフレット

市民に開かれた夢の島マリーナ



出典：夢の島マリーナ資料 (http://www.tokyo-teleport.co.jp/marina/)

保田漁港の漁協直営のレストラン（番屋）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 10 月撮影）

江の島ヨットハーバー（湘南港）を紹介するパンフレット



出典：神奈川県資料

提言 : 周辺景観との調和

周辺景観との調和を図るために、湘南港の整備を進める上では、ヨットハーバーの有する雰囲気を持しつつ、統一感のあるデザインとしていく。また、周辺の自然景観や景観条例等に配慮し、自然素材、植栽等を積極的に導入し、周辺景観との調和に配慮した施設づくりを行うことを提言する。

【背景】

景観的な側面からみると、湘南港はヨットハーバーとしての景観を有し、江の島は古くからの日本の観光地としての町並みや神の島として神社仏閣が残されており、歴史と自然を多分に有する景観となっている。

神社のある江の島の風景



出典：藤沢市資料(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

ヨットが浮かぶ湘南港の風景



出典：藤沢市資料(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

そのため、江の島においては、江の島ならではの「自然・眺望・歴史・文化等」を引き立てながら、江島神社を始めとする歴史的文化遺産を守ると共に、これら歴史的環境に調和した街並み景観が、島の対岸から江の島を眺めると、ヨット・後背の緑・街並みが、江の島を特徴づける良好な景観となっている。

また、晴れた日には富士山を背景とする美しい江の島の風景を対岸から眺めることができることから、今後もこれらの良好な景観を保全していく必要がある。

一方、湘南港では、一部で施設が老朽化しているとともに、機能を重視するあまり景観面に問題を有する部分もみられる。

また、湘南港は昭和 30 年代の埋立てによってつくられた港であるため、自然豊かな江の島に比べやや緑に欠けている状況にある。しかし、湘南港の活用可能な空間は限られているため、緑を大幅に増やすには、施設の立体化などが必要となるが、そのことが逆に景観に悪影響を及ぼす恐れがある。

片瀬東浜からみた江の島



出典：藤沢市資料(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

夕暮れ時の富士山と江の島



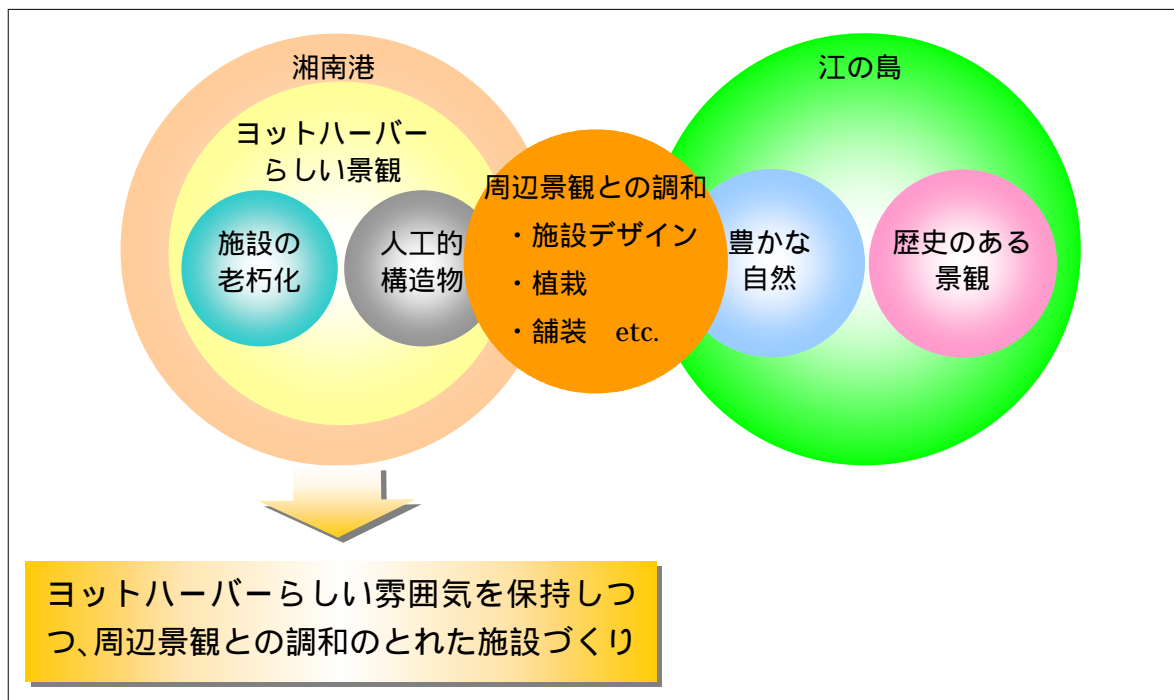
出典：藤沢市資料(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>)

【提言の解説】

今後、湘南港の整備を進める上では、ヨットハーバーらしい既存の雰囲気を持続していく必要があることから、施設のデザイン、植栽、舗装等について、ヨットハーバーとしての雰囲気を損なわない要素を取り入れ、全体として統一感のあるものとしていく。

また、整備にあたっては、江の島の自然景観や江の島特別景観形成計画等に配慮する必要があることから、石材、木材などの自然素材を積極的に用いるとともに、港の機能や景観を損なわない範囲内で植栽を導入し、周辺の景観との調和のとれた施設づくりを行う。

提言「周辺景観との調和」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	江の島とヨットハーバーとの調和と、ヨットハーバーの雰囲気を活かした施設づくり	藤沢市、神奈川県
	江の島のビューポイント等の景観マップの作成	NPO

【参考事例】

植栽の整備事例

緑に覆われた北緑地（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 2 月撮影）

湘南港の魅力を高めるために、みなとの景観が楽しめる飲食施設や花や緑の導入、施設の改善を図るとともに、施設利用時間の延長、ライトアップによる夜間景観の演出を図ることを提言する。

【背景】

休日の湘南港では、ヨットハーバーを利用する人のみならず、防波堤やセンタープロムナード、さざえ島を散策する人など、その場の雰囲気を楽しむために来訪している人もみられる。

これは、湘南港の有するヨットハーバーという都会的な雰囲気と、江の島の有する豊かな自然が一体となることにより、都会のオアシスのような雰囲気が生まれ、人々を引きつける魅力となっているものと考えられる。

このような雰囲気を活かし、マリーナにおいてバーベキューや結婚式、船上パーティなどを行っている事例もみられる。

一方、現在の湘南港には、緑地、広場、遊歩道など、一般利用に対応した施設が整備されており、良好な雰囲気を有しているものの、夜間の利用が制限されているとともに、夜間景観があまり演出されていないなど、ヨットハーバーとしての魅力が十分に活用されていない状況にある。また、ヨットハウスが老朽化しているとともに、港全体が、固く、入りづらい雰囲気となっており、このことが魅力に欠ける要因ともなっている。

マリーナで行われているバーベキュー



出典：国土交通省港湾局環境整備計画室資料

マリーナで行われている結婚式



出典：国土交通省港湾局環境整備計画室資料

老朽化がみられるヨットハウス（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 2 月撮影）

センタープロムナード（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 2 月撮影）

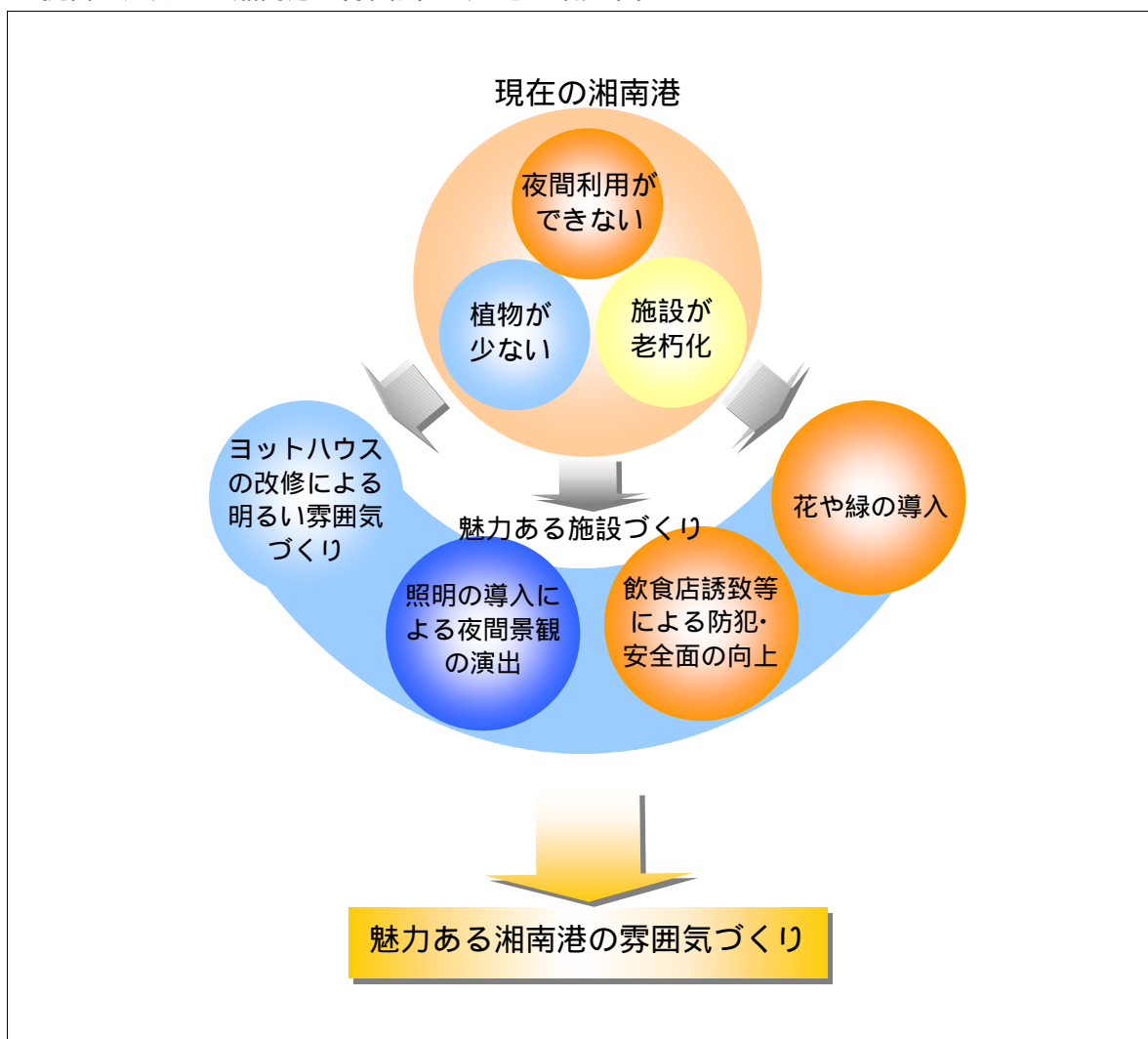
【提言の解説】

湘南港においては、ヨットハーバー固有の雰囲気を活用するため、みなとの景観を楽しみながら飲食できる施設を導入するとともに、ヨットハウス等の施設周辺に花や緑、風や波を視覚的に感じることものできる装置（ブリーズソックスや波のライトアップ等）を導入したり、ヨットハウスの補修や改善を図り、明るく入りやすい雰囲気にする。

また、夏期等において、センタープロムナードの利用時間の延長や、夜間景観も楽しめる飲食店を誘致するとともに、みなとを結婚式、バーベキュー等の場として開放するなど、人々がワクワクするような、華やかで、洗練されたみなとの雰囲気を満喫できるようにする。

さらに、センタープロムナードにおいて照明を導入するとともに、ヨットハーバーのライトアップ等により夜間景観を演出し、あわせて人の目や照明等による防犯面、安全面の向上を図る。なお、ライトアップ等による漁業等への影響が懸念されることから、照明整備の設置においては漁業者との調整を十分に行う必要がある。

提言「魅力ある湘南港の雰囲気づくり」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	飲食できる施設の導入	民間
	花や緑の導入	神奈川県
	センタープロムナードの利用時間延長	神奈川県
	ライトアップによる夜間景観の演出	市民、NPO、神奈川県
	結婚式など港の雰囲気が活かせるソフトづくり	民間
中・長期	ヨットハウスの明るい雰囲気への改善	神奈川県

【参考事例】

魅力ある雰囲気づくりの事例

サウンドスケープ装置 Wave Wave Wave(小名浜港)

波をイメージした造形物で、桟橋下部に打ち寄せる波の音などを、そのまま自然に聴くことができる。また、装置の下からの淡青色の光で、独特の造形を浮かび上がらせている。



出典：小名浜市資料 <http://ww51.et.tiki.ne.jp/~onahama/aquamarinepark/soundscape.html>

サウンドスケープ装置 Umi-Tsukushi(小名浜港)

海に生えたつくしをイメージした造形物で、波の音や海中の音をホーンを通して効果的に聴くことができる。また、音の強弱により、光がフェイドイン・アウトし、音の状況が視覚的にもわかる。



出典：小名浜市資料 <http://ww51.et.tiki.ne.jp/~onahama/aquamarinepark/soundscape.html>

風で動くオブジェ(金沢小柴崎緑道)



出典：株式会社コトブキ資料

遊歩道沿いを彩る草花(シアトル)



出典：(株)並木設計

提言 : 陸上アクセスの改善

陸上アクセスを改善するために、江の島島内及び周辺の駐車情報を提供するシステムを充実させ、渋滞の緩和を図る。また、シャトルバス等の導入や江の島と陸側を結ぶ新たなアクセス手段を整備することを提言する。

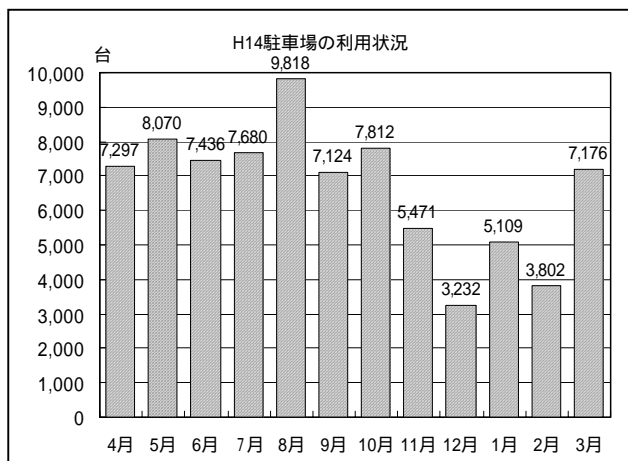
【背景】

江の島は一本の橋でつながれた小さな島であるため、車が集中的に訪れた場合には、一時的に渋滞が発生することがある。

渋滞の発生は、利用者そのものの精神的、肉体的苦痛になるだけではなく、島内住民の交通の妨げや、排気ガスや騒音の発生など、周辺環境に悪影響を及ぼすことにもつながる。

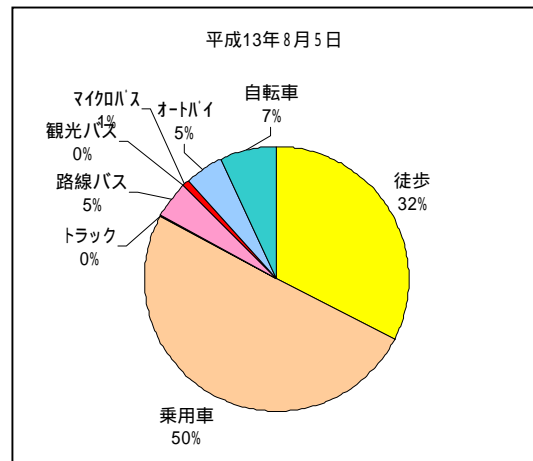
一方、全国的に歩いて楽しめるまちづくりの試みがなされているが、江の島においても、島内の大部分は車で侵入できない状況にあるため、遊歩道等により島内を楽しみながら歩く形態となっている。

月別の駐車場の利用状況（湘南港）



出典：神奈川県資料

交通手段の割合（江の島）



出典：神奈川県資料

駐車場満車による渋滞の発生（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 9 月撮影）

歩いて楽しめる参道（江の島）



出典：神奈川県資料（平成 15 年 2 月撮影）

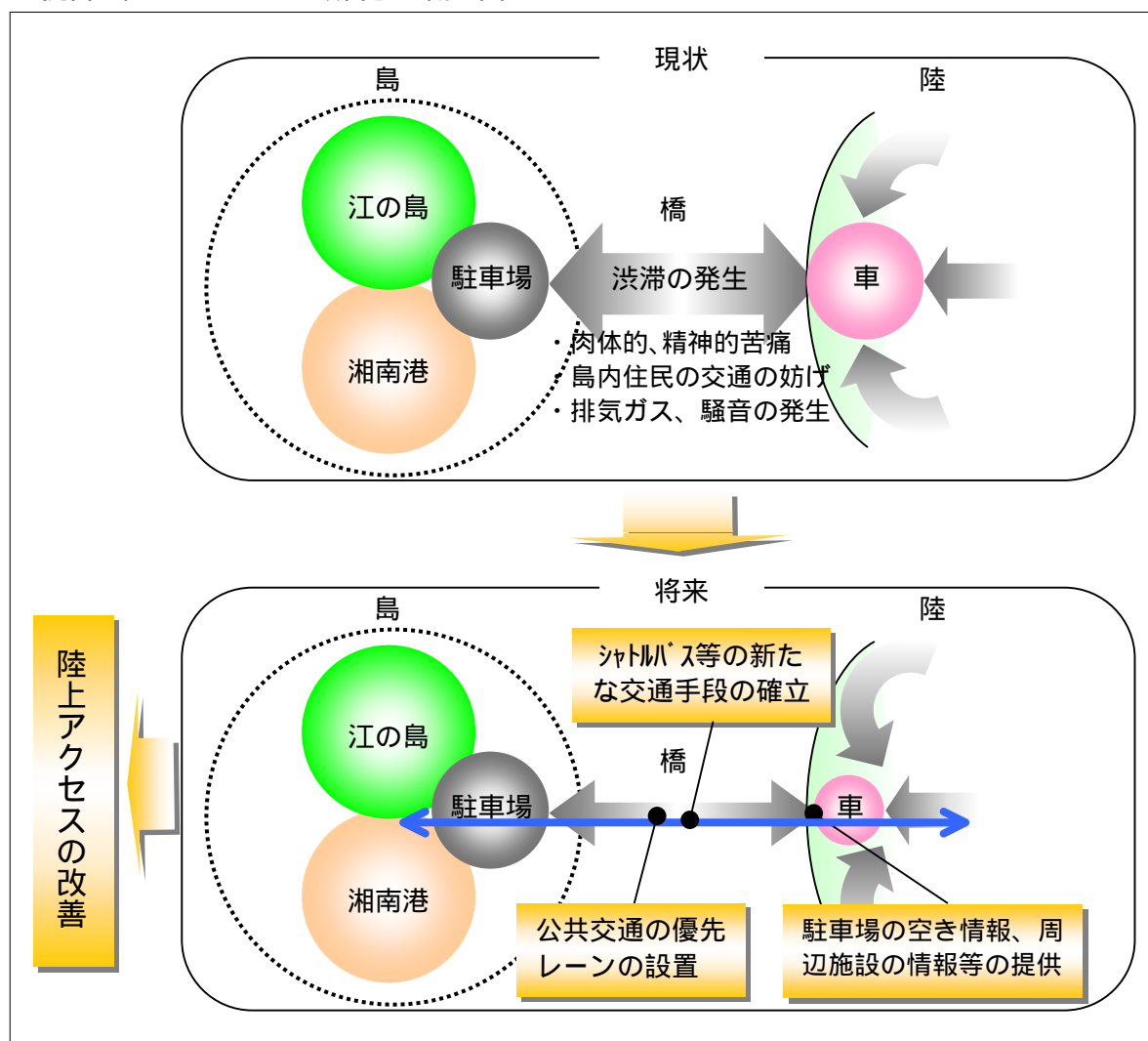
【提言の解説】

江の島、湘南港においては、陸上におけるアクセスの改善を図るため、まず、渋滞の発生状況等の実体を十分に把握し、江の島入口と島周辺の駐車場の空き情報や渋滞情報を提供することにより、入島時間の分散化による渋滞緩和と同時に、パークアンドライドシステムの導入についても検討を進める。

また、島内及び江の島周辺の観光施設における情報のネットワーク化を図り、相互に観光客を呼び込んでいくための仕組みづくりが必要である。

さらに、駅と江の島を結ぶシャトルバスや動く歩道、また、ガラス張りの海中散歩道など新たなアクセス手段を導入するとともに、江の島大橋を拡幅し、中央にバスやタクシーなどの公共交通の優先レーンを設置し、これらの交通手段の積極的な利用により、自家用車の入島が調整でき、渋滞緩和が図られると同時に、高齢者や障害者等が安全かつ快適に来島できるシステムの構築をおこなう。

提言「陸上アクセスの改善」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	駐車場の空き情報、周辺施設の情報等の提供	周辺施設管理者、藤沢市、神奈川県
中・長期	新たな交通手段の確立、公共交通の優先レーンの設置	駐車場管理者、民間、藤沢市、神奈川県

提言 : 海上アクセスの形成

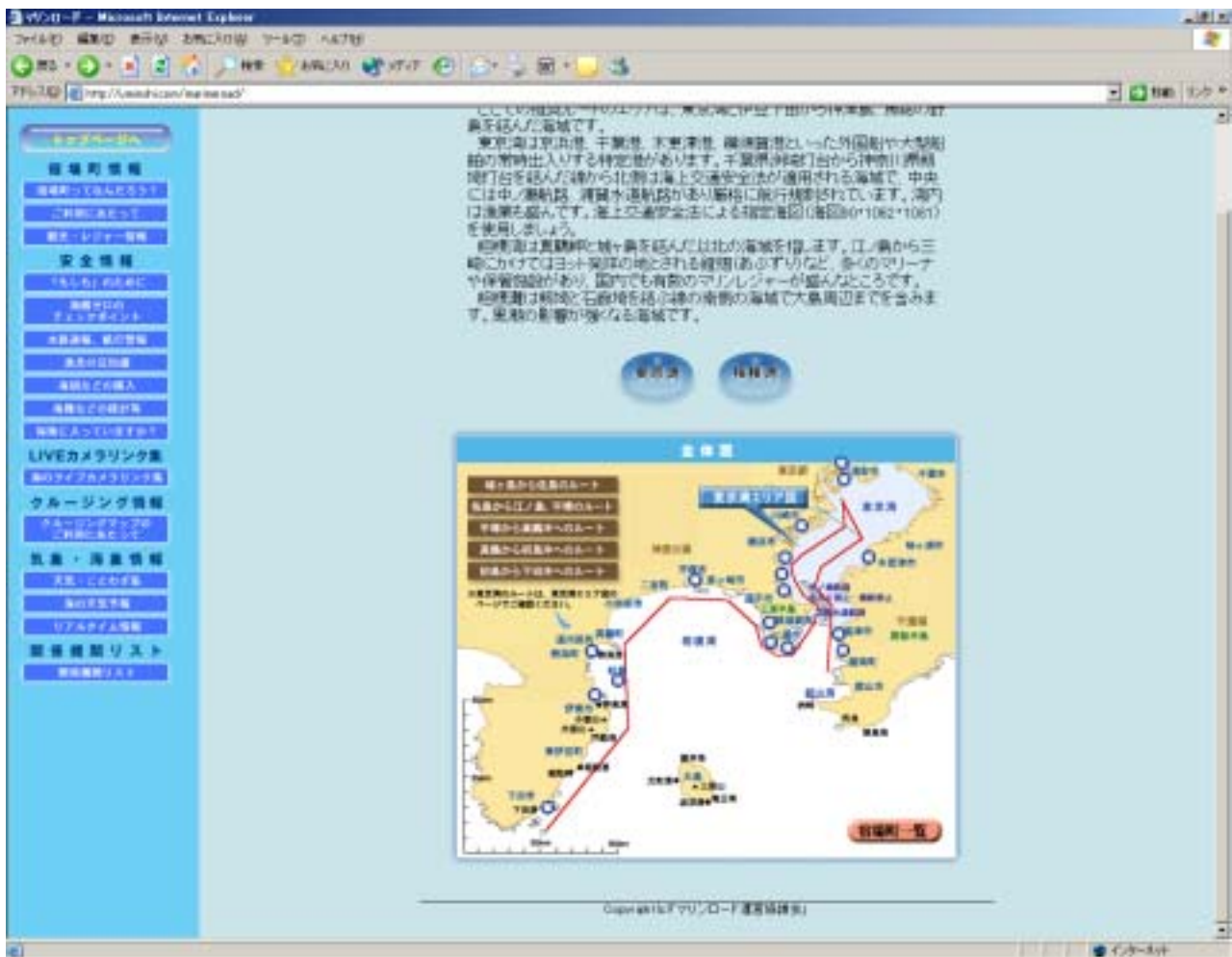
海からのアクセスを向上させるため、湘南港と陸側とを結ぶ定期航路を開設するとともに、他のマリーナや港からのビジター利用に対応した施設の充実を図り、海上交通のネットワーク化の一端を担うことを提言する。

【背景】

湘南港では、これまで大島航路、熱海航路の開設やサーフ'90 における海上交通実験など、海上交通の取り組みがなされているが、現状では海から江の島にアクセスルートがなく、陸上交通が混雑することもあることから、海上交通の形成が求められている。また、ヨットのビジター利用については、現在ビジター桟橋が整備され、インターネットにより情報が提供されているものの、他港からの活発な利用はみられない状況にある。

このような中、海上保安庁では、平成 12 年度から、海道を使って安全に楽しくクルージングができる環境づくりを進め、プレジャーボート利用者の自己責任意識と安全意識の向上を図るため、“マリンロード構想” が検討されている。構想では、伊豆下田から相模湾、東京湾、房総の野島を結ぶルートでクルージングの推奨ルートとして設定しており、ルート内にはいくつかの寄港地（宿場町）としてのマリーナ、漁港等が設定されている事例もある。

マリンロードにおける推奨ルート（海上保安庁ホームページ）



出典：海上保安庁資料（<http://uminohi.com/marineroad/>）

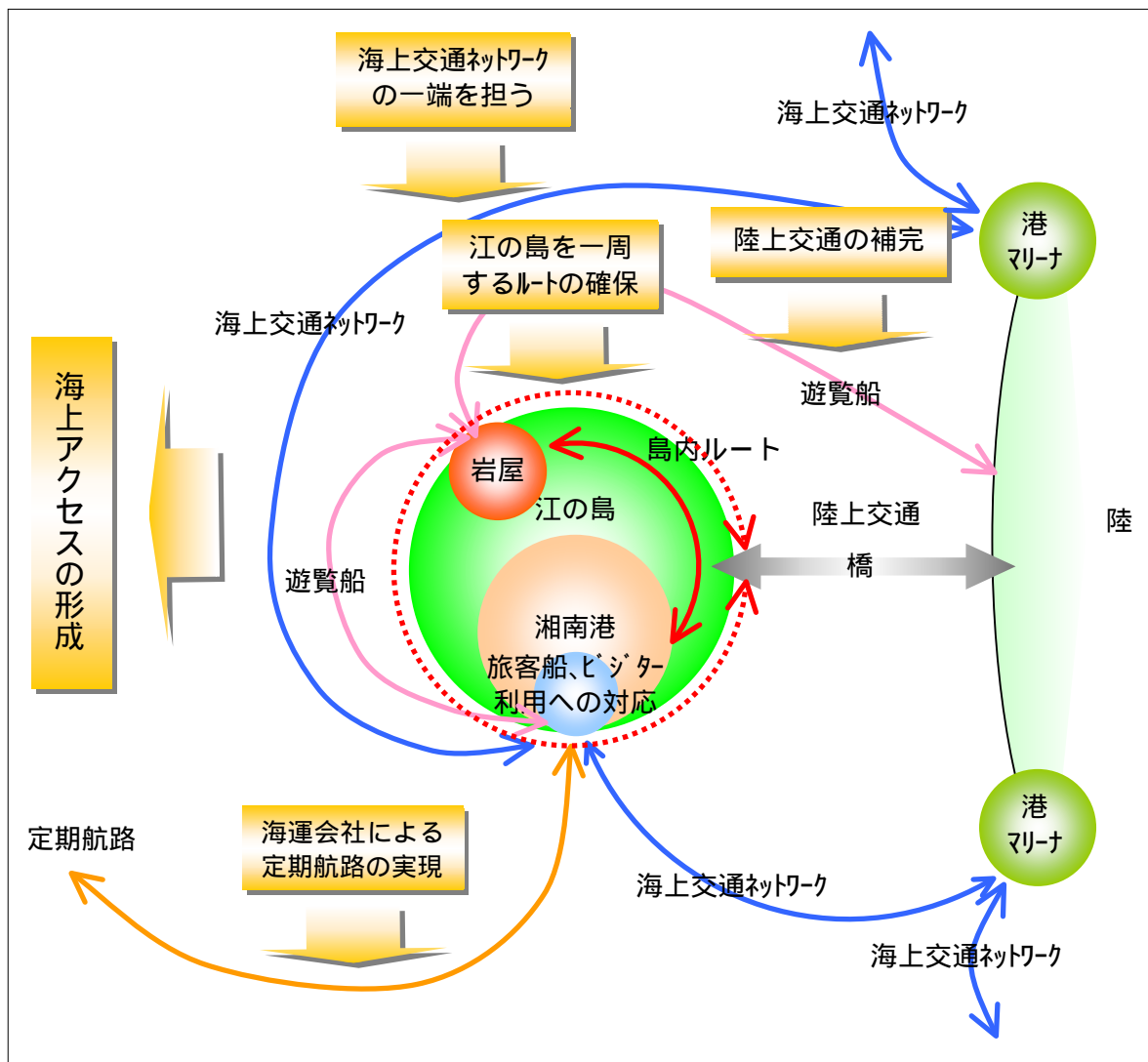
【提言の解説】

湘南港においては、陸上では整備が困難となっている江の島を一周できるルートを海上において確保するとともに、陸上交通を補完するため、既存の弁天橋と岩屋を結ぶ遊覧船のルートを湘南港まで延伸する。

また、他港からの江の島への来島を促進するため、海運会社に対し湘南港と他港を結ぶ定期航路(旅客船)を積極的に誘致し、海上交通の実現を図る。

さらに、他のマリーナや港からのビジター利用に対応した施設の充実を図るとともに、他港とのネットワーク網の構築やインターネット等による情報の提供を図り、海上交通のネットワーク化の一端を担っていく。

提言「海上アクセスの形成」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	湘南港と陸側を結ぶ航路の開設（江の島一周ルートの構築）	民間、神奈川県
	新たな定期航路の誘致及び開設	民間、神奈川県
	ビジター利用に対応した施設の充実	神奈川県

提言 : 緊急物資受入港としての機能の充実

緊急物資受入港としての機能を十分に発揮するために、市民、住民、関係機関等の協力体制を確立するとともに、本船岸壁の静穏度対策の検討、緊急物資受入のための施設整備等を実施することを提言する。

【背景】

湘南港は、神奈川県地域防災計画や藤沢市の防災計画において「緊急物資受入港」として位置づけられており、背後の市町に対して、物資の供給を行うこととなっている。

このため湘南港では、2,000t級の船が泊められる耐震化された本船岸壁が整備されているとともに、江の島大橋の耐震補強もなされている。

耐震化されている本船岸壁（湘南港）



出典：神奈川県資料（平成15年2月撮影）

耐震補強された江の島大橋（湘南港）

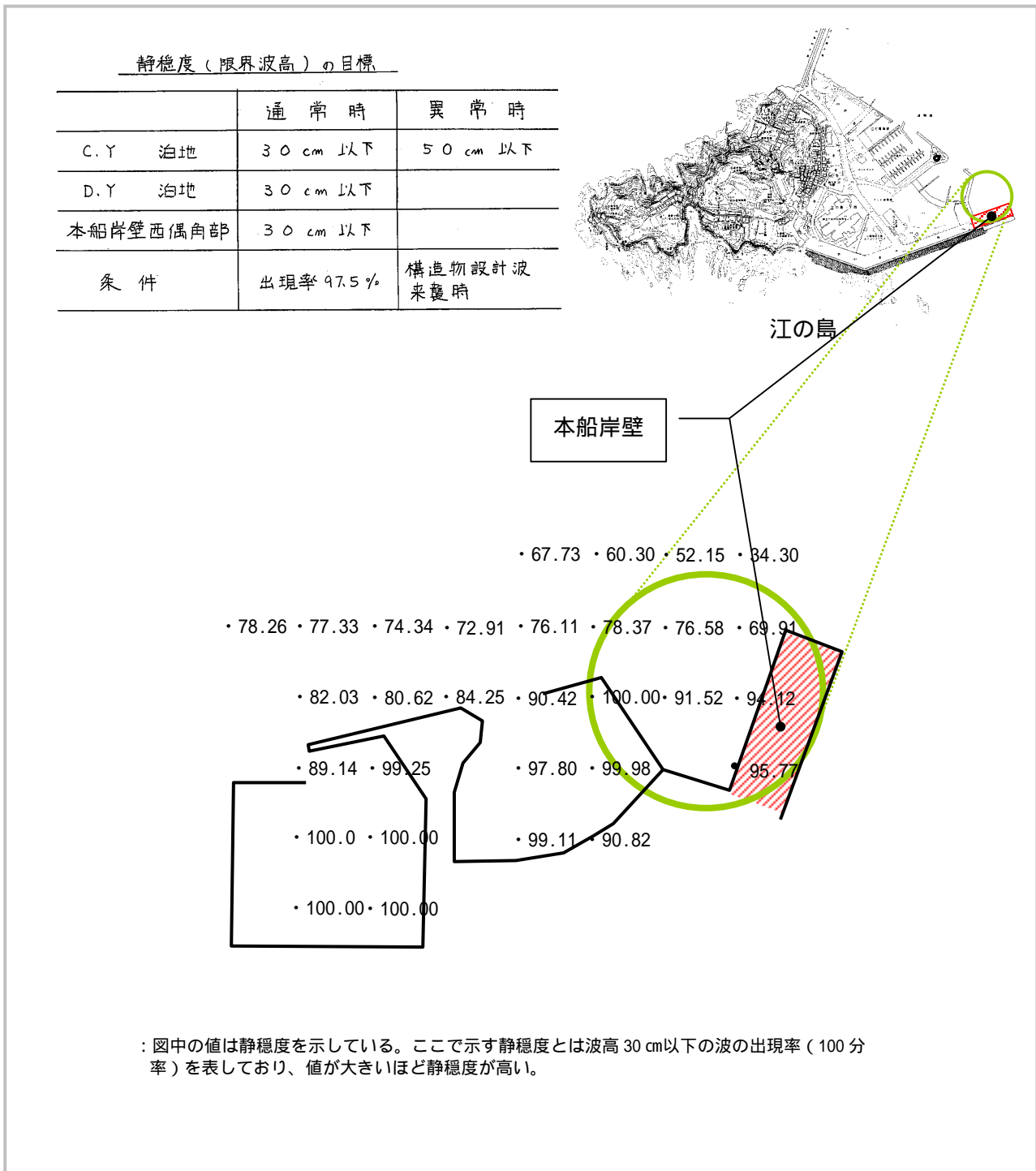


出典：神奈川県資料（平成15年2月撮影）

一方、本船岸壁付近の静穏度は、静穏度の目標（限界波高 30 cm以下の出現率 97.5%以上）を満足していない状況にあり、緊急物資受入のための施設整備がなされていないなど、災害発生時の対応については十分であるとは言えない状況にある。

また、現在、東京湾では、大規模災害時に対応することのできる基幹的広域防災拠点の整備が進められているが、相模湾では臨海部に面した広域防災拠点の計画は無く、今後は、現在進められているものを補完する役割として求められる可能性もある。

湘南港の通常時の静穏度解析結果



出典：平成元年度港湾修築工事護岸，防波堤基本設計報告書 平成 2 年 3 月 神奈川県湘南海岸整備事務所

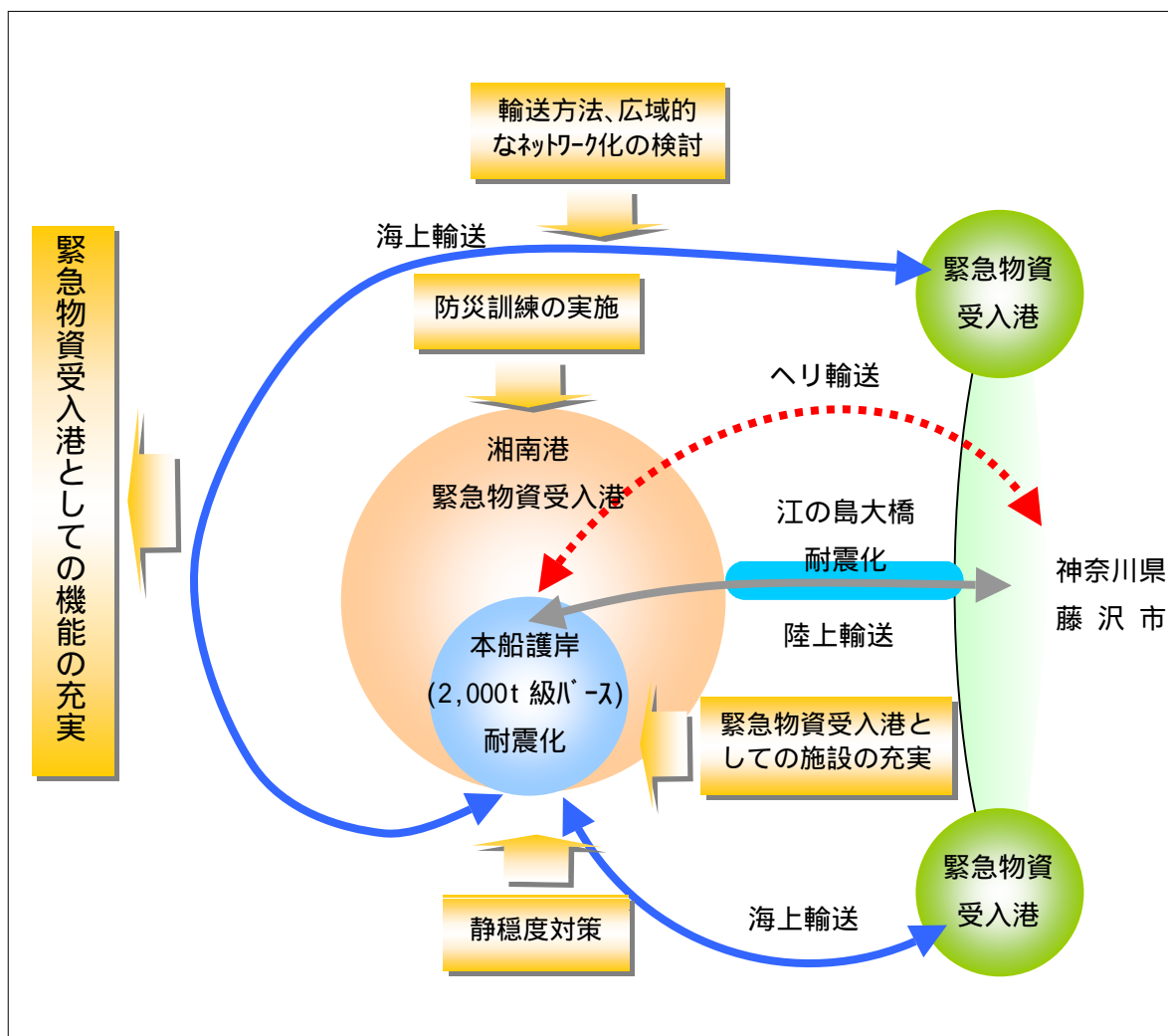
【提言の解説】

湘南港においては、今後、緊急物資受入港としての機能を十分に発揮できるようにするため、湘南港を管理する神奈川県、藤沢市及び周辺市町、海上保安署、江の島片瀬漁業協同組合、警察、消防、住民、ボランティア等との連携を図り、災害時における役割分担などの協力体制を確立するとともに、防災訓練等を実施し、防災意識の向上を図る。

また、陸上、海上、空からの物資の輸送方法の検討や、災害時における港間の協力連携の強化推進と広域的な連携体制を確立する。

なお、静穏度が十分に確保されていない本船岸壁については、静穏度向上のための対策の検討を進めるとともに、医薬品等の仮置倉庫や通信施設の充実等、緊急物資受入港としての機能の充実を図る。

提言「緊急物資受入港としての機能の充実」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	本船岸壁における静穏度向上の対策を検討	神奈川県
	災害時の協力体制の確立	市民、漁業協同組合、藤沢市、神奈川県、海上保安署
	定期的な防災訓練の実施	市民、漁業協同組合、藤沢市、神奈川県、海上保安署
	医薬品等備蓄倉庫や災害時通信設備等防災施設の充実	藤沢市、神奈川県

提言 : 安全管理の向上

安全管理を向上させるために、陸域・海域からの監視を充実させる。また、看板等により海の危険性を周知するとともに、インターネット等を活用した安全情報の提供を行い、事故を未然に防ぐための対策をさらに充実させることを提言する。

【背景】

湘南港は外洋に面しているため、海域が荒れやすく、港に大きな波が打ち寄せている状況にあるため、高い防波堤が整備されており、その周りに大きな消波ブロックが多数設置され、施設の安全強化が図られている。また、湘南港内に湘南海上保安署が設置されており、海上交通の安全確保や海難救助などの活動が行われている。

このように湘南港では、港及び周辺海域における安全を確保するための対策が図られているが、時として港や海域において海難事故が発生している状況にあり、今後も安全確保のための取り組みを行っていく必要がある。

このような中、海上保安庁では、ヨットを始めプレジャーボート利用者の事故防止の減少を図るため、インターネットにより出入港時のチェックポイントや気象・海象情報など安全確保のための情報の提供を行っている。

インターネットで提供されている安全情報（海上保安庁ホームページ）



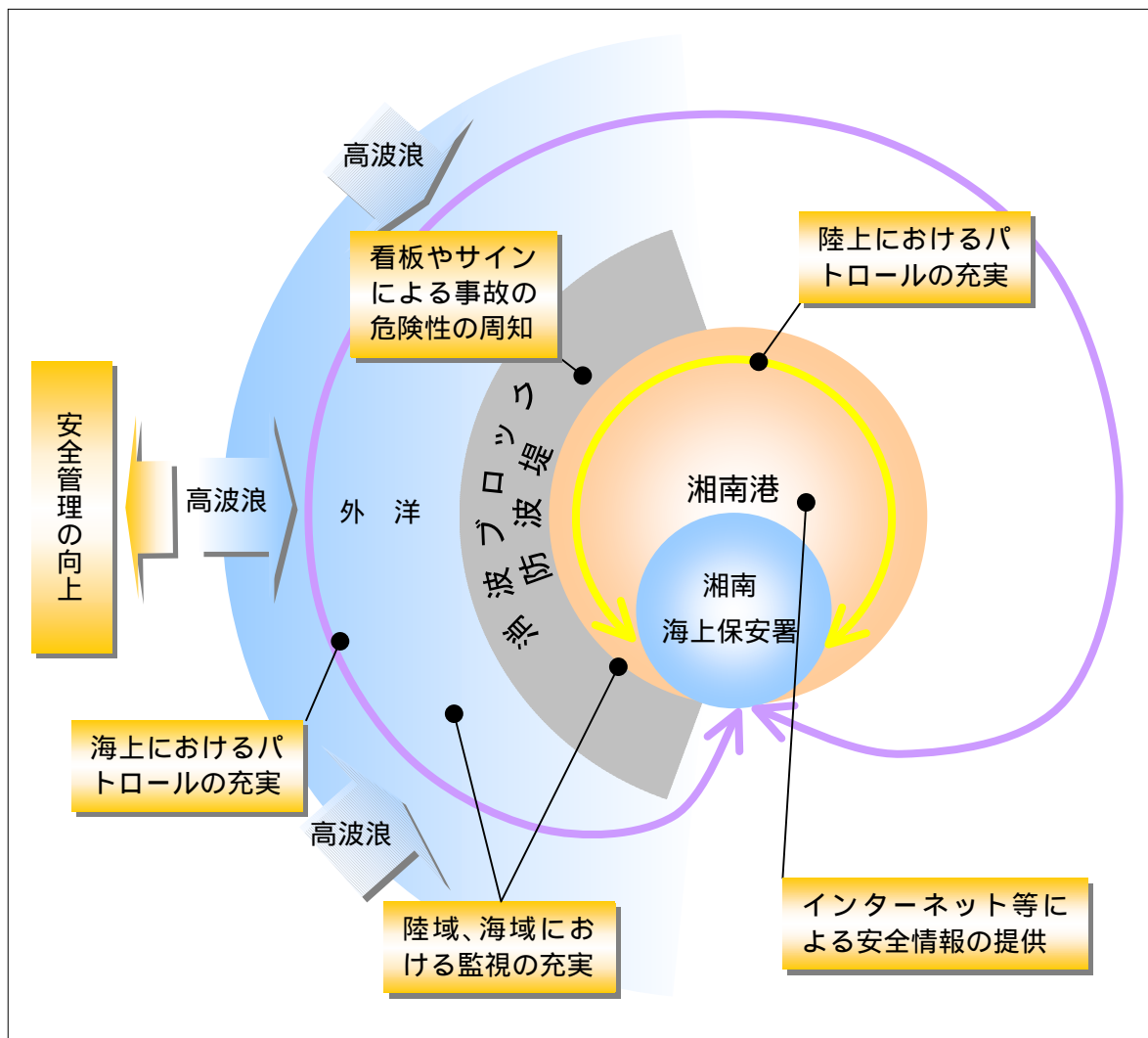
出典：出典：海上保安庁資料 (http://uminohi.com/marineroad/)

【提言の解説】

今後も、海難事故を未然に防止するためには、平常時における海上・陸上からのパトロールを引き続き実施していくとともに、荒天時においては、神奈川県や、湘南海上保安署、江の島片瀬漁業協同組合、NPO等との連携を図り、陸域、海域の監視を充実させ、安全管理の向上を図る。

また、防波堤や磯場付近等に看板やサイン等を設置し、来島者に事故の危険性について十分に周知するとともに、インターネット等を積極的に活用し、湘南港の海象状況等の安全情報をリアルタイムに提供するなど、事故を未然に防ぐための対策をさらに充実させていく。

提言「安全管理の向上」の概念図



【提言実現のための施策案】

計画期間	施策案	主体
短・中期	監視、非常時連絡体制の充実	NPO、漁業協同組合、神奈川県、海上保安署
	インターネット等による安全情報の提供	神奈川県
	危険周知看板等の設置	神奈川県